

<今日の説教のポイント ルカによる福音書1章57～80節>
バプテスマのヨハネ誕生の出来事を詳しく記すルカの意図は？

①ヨハネ誕生の詳しい報告こそ、イエス様の重要性を示している！

1章5～25節に続いてまたザカリアとエリサベトに起こったバプテスマのヨハネ誕生の出来事です。一番大事なものはイエス様の誕生なのに、ルカは、なぜこんなにヨハネの誕生のことを詳しく記したのでしょうか？ よく読むと、ヨハネにも「主の力が及んでいた」(66)と言いつつ、「主に先立って行き、その道を整え」(76)と、あくまでイエス様に仕える者であることが押さえられています。バプテスマのヨハネは当時イエス様と並んで人々から重んじられていたこと、しかし、決してイエス様に代わるものではないことをルカは伝えようとしたと考えられています。今の私たちには関係ない？ いいえ、そんなことはありません。キリストの上をしっかり立った信仰(私の様な者がこの方の死によって受け入れられたことを知らされた信仰！)が築かれる時に、もう何も恐れるものはなくなるし、したがって、どんな人をも受け入れられるようになるからです。

②神様は恐れを生む！ 畏れるべき方に対する当然の恐れを！

『聖なるもの』(1917年、邦訳あり)の中でオットーという神学者が、尋常でないもの(神的なもの)に出会ったとき、人はまず恐れを覚える(ヌミノーズ)ということの問題にしました。ザカリアの口が開いて神を讃美し始めたとき、「近所の人々は恐れを感じた」(64-65)というのがこれに当たるでしょう。しかし、これはただ「怖い」というのではなく、自分たちとは全く違う神様(絶対他者)を覚えて「畏れ」を抱いた時に、その相手に対して覚える当然の「恐れ」と言えるでしょう。聖書の神様はひとり子を私たちの救いのために与えて下さった深い憐れみに富む恵みの神様です。だからこそ、私たちはこの神様を畏れ、それ故に恐れるのです。この神様を軽んじることなく、正しく恐れる信仰者になりたいものです。

③イエスとヨハネの関係は旧約の成就 まさに神様のなさり方！

イエス様はマラキ書(3:1, 23)を引用してヨハネのことを語られます(マタイ11:10)。まさに神様のなさり方です(12/3の説教)。